

# 上士幌町第2期子どもの読書推進計画

(令和3年度～令和7年度)

令和 3年 3月

上士幌町教育委員会

# 上士幌町第2期子どもの読書推進計画 目次

## 第1章 計画策定の基本的な考え方

- 1 基本方針
- 2 計画期間
- 3 計画の対象及び各発達段階の取り組みの特徴

## 第2章 「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」期間における読書推進状況

### 1 子どもの読書に関する本町の現状と課題

#### (1) 読書アンケート調査結果

- 1) 読書アンケート調査概要
- 2) 児童・生徒アンケートからみる現状と課題
- 3) 保護者アンケートからみる現状と課題

#### (2) 上士幌小学校読み聞かせボランティア アンケート調査結果

- 1) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート調査概要
- 2) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケートからみる  
現状と課題

### 2 子どもの読書推進のための方策に関する本町の現状と課題

## 第3章 重点目標と基本施策

- 1 重点目標
- 2 基本施策
- 3 目標とする指標の設定

## 第4章 子どもの読書推進のための方策（目標達成のための具体的施策）

### 1 「いつも身近に本がある」環境づくりを進める取り組み

- (1) 有機的につながる読書のネットワークづくり
- (2) 認定こども園における図書の実方策
- (3) 小学校、中学校における図書の実方策

### 2 子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進

- (1) 全児童生徒で取り組む読書活動
- (2) 地域で進める子どもの意識啓発

### 3 家庭での読書を広めていく取り組み

- (1) 保護者の意識を高める取り組みの推進
- (2) 地域における保護者の支援体制の実方策

## 第5章 参考資料

## 第1章 計画策定の基本的な考え方

### 1 基本方針

「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないもの」<sup>1</sup>です。国においても、読書の重要性を鑑みて、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、社会全体でその推進を図っていくこととしました。それを受けて北海道も、平成15年11月に、「北海道子どもの読書推進計画」を策定し、現在、平成30年3月からの5年間を計画期間とする「北海道子どもの読書活動推進計画<第四次計画>」により施策を推進しています。上士幌町でもそれらを参考に平成28年1月に「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」を策定し、子どもの読書環境の整備等を進めてきました。第2期計画は、第1期計画での課題等を踏まえ、今後の5年間の子どもの読書活動推進に関する計画として策定し、上士幌町の子どもの読書活動施策の充実に取り組んでいきます。

### 2 計画期間

令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

ただし、他の計画や社会情勢の変化等により見直しが必要と判断した場合は見直しを行います。

### 3 計画の対象及び各発達段階の取り組みの特徴

計画は、おおむね18歳以下の子どもとします。なお、子どもの各発達段階における取り組みの特徴を、本計画では下記のとおりとします。

#### ◆乳幼児期～小学校低学年（0歳～8歳）「本と出会い、楽しさを知る」

乳幼児期から小学校低学年にかけては、特に読み聞かせを通して本と出会い、本との触れ合いを作っていく期間とします。本の楽しさを体感していき、その後の人生で本から様々なことを学んでいく素地を作ります。

#### ◆小学校中学年～小学校高学年（9歳～12歳）「本から学ぶ術を知る」

小学校低学年までに本の楽しさを体感し、本から様々なことを学んでい

<sup>1</sup> 「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条より

く素地を作ったら、その後は自らの成長に応じて本から様々なことを学んでいきます。特に小学校中学年～高学年は、身近に本がある環境の中で、「本から学ぶ」術を身に付けていく期間とします。

◆中学生（13歳～15歳）「生活の中で本から様々なことを学ぶ」

中学生は、学校での学習や部活動により、学校で生活する時間や家庭学習に要する時間も増えていく中で、読書をする時間を確保するのが難しい傾向にあります。よって、「読書」が特別なものではなく、生活の一部としながら、様々なことを学んでいける力を身に付ける期間とします。

◆高校生（16歳～18歳）「図書館の活用を知る」

高校生からは、学校教育が終わってからも「生涯学習」の観点に立ち、本から様々なことを学んでいけるよう、図書館の機能を積極的に活用できる方法を習得する期間とします。

第2章 「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」期間における読書推進状況

1 子どもの読書に関する本町の現状と課題

(1) 読書アンケート調査結果

1) 読書アンケート調査概要

「上士幌町子どもの読書推進計画」の進捗度合、達成度を計り、本町の課題を明らかにするために、平成28年度から毎年読書アンケート調査を実施しています。

調査年度	調査期間	回答者数（人）						
		こども園 保護者	小学2年 保護者	小学5年 保護者	中学2年 保護者	小学 2年生	小学 5年生	中学 2年生
H28年度	2/20～3/3	43	30	8	24	33	35	37
H29年度	1/22～2/2	79	18	34	12	27	43	10
H30年度	1/21～2/1	66	15	26	38	31	44	47
R元年度	1/31～2/14	56	19	20	13	42	37	37

2) 児童・生徒アンケートからみる現状と課題

学年が上がるにつれ読書量が少なくなる傾向にあり、小学校高学年、中学生の不読率が高くなっています。読まない理由として「少年団や部活動が忙しい」「他にやりたいことがある」などといった時間的余裕がないこと、読書

の優先順位が低いことが挙げられています。今後、図書館が中心となり、図書館・学校（認定こども園を含む）・家庭・地域が読書活動についての情報を共有し、定期的に個人・各組織が課題等を確認する場を設け、各組織や地域住民が連携することができる体制構築が必要となります。個人・各組織ではなく、地域全体で子どもの読書活動を支え、子ども達が自主的に読書活動を行うことができるよう、発達段階に応じた読書の取り組みを実施することが必要です。

### 週にどれくらい本を読みますか？（小学2年生）

	1～2日	3日	5日以上	あまり読まない
平成28年度	26%	21%	12%	41%
平成29年度	30%	44%	15%	11%
平成30年度	48%	23%	3%	26%
令和元年度	31%	33%	12%	24%

### 週にどれくらい本を読みますか？（小学5年生）

	1～2日	3日	5日以上	あまり読まない
平成28年度	25%	28%	22%	25%
平成29年度	24%	34%	18%	24%
平成30年度	34%	25%	32%	9%
令和元年度	19%	24%	14%	43%

### 月にどれくらい本を読みますか？（中学2年生）

	1～3冊	4～6冊	7～10冊	11冊以上	読まない
平成28年度	63%	17%	9%	9%	9%
平成29年度	63%	25%	0%	0%	13%
平成30年度	65%	7%	4%	13%	11%
令和元年度	41%	5%	0%	3%	51%

### 3) 保護者アンケートからみる現状と課題

児童アンケートの結果同様、「家事や仕事に追われ読書する時間的余裕がない」と答える保護者の回答が多くみられました。働き盛りの多くの保護者が、読書をするための時間を捻出することができないと感じているようです。また、パソコン・スマホ・タブレットが普及し、読書への関心は希薄に

なっており、保護者自身も普段読書を行っていない状況が見受けられます。課題として、各組織・個人と連携し取り組む読書活動の推進、親子で楽しむことができる読書イベントの企画・周知方法の検討、家庭への読書活動の啓発が挙げられます。地域全体で子どもの読書活動を支え、親と子どもが共に楽しむことができる読書活動の推進を目指す必要があります。

**月にどれくらい本を読みますか？（こども園保護者）**

	月1～2冊	月3～4冊	月5～10冊	月10冊以上	読んでいない
平成28年度	29%	10%	2%	0%	59%
平成29年度	49%	6%	1%	0%	44%
平成30年度	36%	12%	7%	3%	41%
令和元年度	50%	7%	0%	4%	39%

**月にどれくらい本を読みますか？（小学2年生保護者）**

	月1～2冊	月3～4冊	月5～10冊	月10冊以上	読んでいない
平成28年度	24%	10%	0%	0%	66%
平成29年度	39%	0%	6%	0%	56%
平成30年度	38%	0%	0%	0%	62%
令和元年度	28%	11%	6%	6%	50%

**月にどれくらい本を読みますか？（小学5年生保護者）**

	月1～2冊	月3～4冊	月5～10冊	月10冊以上	読んでいない
平成28年度	50%	13%	13%	0%	25%
平成29年度	44%	6%	0%	3%	47%
平成30年度	38%	8%	0%	4%	50%
令和元年度	25%	5%	0%	0%	70%



## 月にどれくらい本を読みますか？（中学2年生保護者）

	月1～2冊	月3～4冊	月5～10冊	月10冊以上	読んでいない
平成28年度	54%	21%	0%	0%	25%
平成29年度	42%	17%	0%	0%	42%
平成30年度	50%	15%	3%	3%	29%
令和元年度	15%	15%	0%	0%	69%

### (2) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート調査結果

#### 1) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート調査概要

「上士幌町第2期子どもの読書推進計画」の策定に向け、上士幌小学校で読み聞かせ活動に参加している保護者・地域の方を対象に、読書ボランティア活動についてアンケート調査を実施しました。

(ア) 対象者：上士幌小学校 読書ボランティア

(イ) 調査期間：令和2年6月12日（金）から令和2年6月30日（火）

(ウ) 回答者数：7名

#### 2) 上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケートからみる

##### 現状と課題

現在、小学校の保護者、ゆめ育応援団として活動されている地域の方、あわせて10名程のメンバーが小学校での読書活動に参加しており、絵本の読み聞かせやブックトーク、読書活動の紹介等、子どもたちが本と触れ合う機会をつくり、読書の大切さや魅力を伝えています。

読書ボランティアの中には、子どもが小学校を卒業すると同時に、小学校での読書活動から離れる保護者もあり、今後、持続可能な読書活動を行うために、新たな読書ボランティアの参加が大きな課題になります。また、読書ボランティアが学校で活動する際、ボランティアと学校が直接調整を行うことは双方にとって負担が生じるため、「今後も読書コーディネーターが中心となり、学校と日程調整を行ってほしい」という声が多くありました。

読書コーディネーターが、学校と読書ボランティアとをつなぎ、学校・家庭・地域が連携した読書活動を継続できるよう、今後も読書コーディネーターとして従事する人材の確保も課題の一つとなります。

「読み聞かせボランティア」の日程調整等は読書コーディネーターが行っている。現在の方法でご自分の負担になると思われることはありますか？

負担がない	負担がある
7	0

読書コーディネーターがいなかった場合は読み聞かせボランティアをされていましたか？

していない	していた
6	1

## 2 子どもの読書推進のための方策に関する本町の現状と課題

第1期の計画で掲げた目標達成のための具体的施策について実績評価を振り返り、本町の現状と課題を整理します。

### 「いつも身近に本がある」環境づくり

#### (ア) 有機的につながる読書のネットワークづくり

子どもの読書アンケート結果については教育委員会、校長・教頭会、社会教育委員の会議で報告し、情報共有を行っています。

社会教育委員の会議においては、図書館事業についても報告しています。社会教育委員の会議以外にも、関係機関・団体との図書館事業も含めた情報共有や連携の場面を深める課題があります。

#### (イ) 認定こども園における読書の充実方策

認定こども園の継続的な蔵書の充実を図るため「ふるさと納税子育て・少子化対策夢基金」を活用し、新刊の購入や劣化した本の更新を行いました。絵本の蔵書数も安定したことで、絵本とは異なる形で物語等に触れる機会を増やすため、パネルシアターやエプロンシアターなども購入しています。今後も長期的に本の入れ替えを図り、子どもの興味にあわせて、ALT（外国語指導助手）や国際交流推進員による読み聞かせ、図書館との連携も深め、身近に本のある環境づくりを進める必要があります。

#### (ウ) 小学校、中学校における図書の充実方策

読書コーディネーターの配置によって、各小中学校の図書担当教諭と連携し、図書室の整備を行い、上土幌小学校においてはブックトラック（移動式書架）を配置しました。また、読書コーディネーターは読書普及活動の推進とし



て、絵本作家を招いたイベントや朝の読書活動等のボランティア活動の調整等を行いました。

学校の多岐にわたる業務内容を鑑み、学校教諭の負担を軽減しながら読書活動を進めて行くためにも、継続して各学校と図書館をつなぐ読書コーディネーターを配置し、子どもの読書活動を進めることが求められています。

前計画の中で、上士幌小学校の図書室を町内小学校の中核図書室として位置付けて蔵書の充実を図りました。その結果、上士幌小学校においては、令和2年度、学校図書館図書標準冊数を達成することができました。今後は、学びのスタイルの変化や社会情勢に合わせて、活用される蔵書の充実が望まれます。一方で、上士幌中学校では、図書の蔵書率は上がってきているものの、学校図書館図書標準冊数には達していません。今後も継続的な蔵書の充実が必要です。

## 「子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進」

### (ア) 全児童生徒で取り組む読書活動

認定こども園での読書活動の促進として「行事の前」や「活動前後」、「給食前活動」等の導入に絵本や紙芝居、パネルシアターなどを活用しています。PCTA（P=保護者 C=地域 T=教師 A=組織）と連携した読み聞かせやお話会「カッコウ」による読み聞かせなど、地域の方との触れ合いを通して、家庭で読む本以外の読書へ取り組むきっかけづくりを行っています。また、認定こども園では、幼少期の発達段階に合わせ、生活の中で本に自然と触れる機会の充実を図っています。その結果、小学生になる段階で「本が好き」と答える児童の割合も高い状況です。

小学校では、「上小っ子タイム」という朝の活動の中で、定期的に本に触れる活動に取り組んでいます。また、発達段階に合わせて、読書コーディネーターが中心となり、地域のボランティアによる読み聞かせやブックトークを行っています。

中学校では、毎朝 10 分程度の時間を先生と生徒が一斉に本を読む「朝読」の活動を行っています。

学童保育所では、新生涯学習センター内に移転されたことで図書館行事への積極的参加や学校の長期休業中の支援員等による継続的な読み聞かせを実施しています。

今後も継続して活動を行うための仕組づくりが必要です。

### (イ) 地域で進める子どもの意識啓発

事業の周知は町の広報「図書館だより」や町ホームページなどで行っています。来館しない方への周知や利用者への関心をより引き出すためにも、関係する機関との連携を深め、読書推進の機運を高める機会を増やすことが必要です。

新生涯学習センターの機能を活かした事業展開として、新たに学童保育所が移転したことによる図書館イベントへの参加の高まりがみられました。今後も連携を深めながらイベント等の企画を考える必要があります。

除籍本を利用して、北海道家庭教育サポート企業に登録された企業に本を設置し、町の中での図書環境の充実を図る取り組みを行ったところ、資料の活用頻度の高まりはありませんでした。登録企業の職員に各種事業等で協力してもらいながら、仕事内容を本と一緒に紹介するといった「人的資源の活用」等の方向でも連携した取り組みの促進を模索する必要があります。

## 「家庭での読書を広めていく取り組み」

### (ア) 保護者の意識を高める取り組みの促進

保護者の学ぶ機会の充実として講演会事業を行いました。親子で一緒に参加できる体験や絵本作家講演会は継続を望む声も多く、作品世界への理解と親しみを深める大きなきっかけとなっています。事業の前後で効果的な情報発信を通して、さらに本に対する関心が高まるように努める必要があります。

### (イ) 地域における保護者の支援体制の充実

地域全体で取り組む読書環境の整備として、コミュニティスクール登録の団体企業への除籍本の配布を行いました。より多くの地域住民と図書館をつなぐ取り組みとして、図書館の利用案内を様々な場所へ置くなどの工夫をはじめ、開かれた図書館づくりに努める必要があります。

子どもの居場所となる図書館づくりとして、児童書、絵本の充実をはじめ、「お話会」「めざせ！昆虫博士」「映画会」等、子どもたちを対象とした各種事業等を行いました。今後もより多くの子どもに図書館に行きたいと思ってもらえるような環境づくりを進めることが必要です。

## 第3章 重点目標と基本施策

### 1 重点目標

子どもたちが各発達段階を通じて本に触れ合い、本に楽しめるような姿勢を

育むためには、乳幼児期から小学校低学年までに、その素地を養うことが重要です。この素地をもとに、発達段階に応じた「本」との出会いを通じて、心豊かに生きるために必要な様々なことを吸収し、豊かな人生を歩むことにつながります。

**(1) 乳幼児期から小学校低学年までの子どもが、より本の楽しさを体感できるように、本と触れ合うための環境整備と充実を進める。**

**(2) 小学校中学年から中学生までの子どもが、自らの興味、関心に沿って本から様々なことを学ぶ図書の実備充実を務める。**

## **2 基本施策**

重点目標を達成するため、3つの基本施策を定めます。

### **(1) 「いつも身近に本がある」環境づくり**

子どもたちが多くの時間を過ごす学校（認定こども園を含む）や学童保育所、地域の読書推進の中核的な役割を果たす図書館をはじめとして、家庭、地域の全てが、子どもにとっていつも身近に本がある環境となるように務めます。

### **(2) 子どもの意識啓発の促進**

環境づくりと一体となって、子ども自身が読書の重要性を知り、読書が好きになる意識を啓発していくため、子どもが多くの時間を過ごす学校（認定こども園を含む）、学童保育所、地域の中核施設としての図書館を中心に施策を推進します。

### **(3) 乳幼児の保護者への意識啓発の促進**

特に就学前の子どもが本に親しみ、本を好きになるためには、家庭での保護者の姿勢が重要です。「ひとり親家庭」も含む核家族化、共働き世帯の増加している現在の実態を踏まえつつ、保護者への意識啓発を一層促進していきます。

### 3 目標とする指標の設定

基本施策を推進することで、下記の指標を達成することを目指します。なお、教育委員会において引き続き毎年アンケート調査を実施し、目標とする指標の達成度合いを確認します。

#### ◆小学生

読書が好き	1週間の読書日数（10分以上）		学級文庫利用 1週間一冊以上	学校図書室利用 1週間1回以上
	あまり読まない	毎日読む		
全学年 70%以上	全学年 25%以下	全学年 20%以上	全学年 70%以上	全学年 70%以上

#### ◆中学生

読書が好き	1か月の読書冊数（10分以上） 読まない	学校図書室利用 ほとんどいかない
全学年 70%以上	全学年 10%以下	全学年 50%以下

#### ◆家庭

認定こども園家庭1週間の 読書日数（冊数）		保護者の読書量 1か月1冊以上	図書館読み聞かせ活動
読んでいない	ほぼ毎日読む		
全クラス 25%未満	全クラス 40%以上	60%以上	令和元年度実績を維持

## 第4章 子どもの読書推進のための方策（目標達成のための具体的施策）

### 1 「いつも身近に本がある」環境づくりを進める取り組み

#### (1) 有機的につながる読書のネットワークづくり

図書館、学校（認定こども園を含む）、読書に関わる関係団体、読書に関する個人ボランティアなどはそれぞれの取り組みを深める中で、それぞれが「ゆるやかなつながり」をもって活動を進めてきました。平成28年4月に総合的な調整を行う「読書コーディネーター」が配置されたことにより、それぞれがもっている役割とニーズを前提としつつ、「ゆるやかなつながり」のなかで学校（認定こども園を含む）における図書の環境整備や読書活動等の仕組みづくりが行われてきました。

今後は、この「ゆるやかなつながり」を保ちつつ、情報の共有を行うとともに

に、この計画で定めた内容が進められているのかのチェック機能も果たしながら、全町を挙げて子どもの読書を定着させていくための取り組みを進めます。

#### ◆ 子どもの読書に関わる情報を共有する機会の創設

本町では今まで、学校（認定こども園を含む）や図書館、関係団体、関係ボランティアなど、それぞれが子どもに本の素晴らしさを広めていくための活動を進めてきました。しかし一方で、それぞれのニーズや活動内容などを共有する機会が乏しく、一緒に課題解決に向けて取り組む機会は不足していました。これらを踏まえて、今後は教育委員会生涯学習課図書館担当が事務局的な役割を果たしながら、各関係者、各関係機関、各事業の現状把握やニーズの共有、調整ができる機会を創設します。その機会のなかで本計画の進捗状況についても検証・評価を行い、子どもの読書を定着させていきます。

### (2) 認定こども園における図書の充実方策

認定こども園における絵本の充実は、「乳幼児期から小学校低学年までの子どもが、より本の楽しさを体感できるよう、本と触れ合うための環境を作る」という本計画の重点目標を達成するため、非常に重要となります。

絵本の充実に務め、令和元年度には蔵書数が安定したことからパネルシアター・エプロンシアターの購入を行っています。引き続き、子どもが自らの興味・関心に基づいて絵本を楽しむことができるよう、日々、絵本と親しむ取り組みを進めていきます。これらの取り組みの充実を図るために、下記を重点的に取り組みます。

#### ◆ 継続的な蔵書の充実

令和2年度において蔵書数は2,621冊になる予定です。新しい本の購入とともに、図書館の蔵書も活用できるよう連携を図ります。さらに今後においては人気のある本やロングセラーとなっている本の更新も必要になるため、予算の確保に務めます。

#### ◆ 図書館との連携

これまで図書館との定期的な関りや情報交換の場がありませんでした。



今後においては、読み聞かせ事業等でそれぞれが所蔵しているパネルシアター・紙芝居・しかけ絵本・布絵本・大型絵本等の貸し出しを行うことや読み手として職員やALTなども含めてお互いに協力をするなどしながら情報交換等を行うことで、子どもたちが様々な絵本を楽しむことができる環境づくりをすすめます。

### (3) 小学校、中学校における図書の実方策

本計画の重点目標を達成するためには、小学校低学年までの子どもが、いかに本を身近に感じ、本を楽しめる環境を作るか、ということが重要ですが、併せて、その養った素地を継続して伸ばしていく環境も重要です。平成21年に上士幌町教育委員会において策定した『かみしほろの健やかな育ち』においても、「あかるい学校」の中に、「読書大好き学びの基本」の項目が書かれています。

今後においても、読書コーディネーターを核とした読書ボランティアなどの地域人材や図書室の効果的な活用と、図書館と連携した学級文庫の取り組みを行うなかで、今ある環境をより充実させていきます。

#### ◆ 継続した「読書コーディネーター」の配置

図書館、認定こども園、各学校の読書に関する環境を計画的に整備していくためには、それぞれがもっている役割とニーズを前提としつつ、総合的な調整を行う人材が不可欠です。そこで、平成28年4月に「読書コーディネーター」を配置しました。横断的で総合的な調整の役割を担える人材として、上士幌小学校・上士幌中学校・上士幌高等学校において図書担当教諭と連携し、図書室等の環境整備や地域人材を活用した読み聞かせ事業等を展開してきています。このことは、中学生までに得た読書習慣を高校生となってからもより確かなものにし、主体的な読書活動を推進するために必要となる取り組みです。

今後においても配置を継続し、学校と地域とを結ぶ役割を担うとともに、これまで直接関わりの無かった認定こども園の状況を把握することで、より効果的な取り組みを行います。

#### ◆ 図書環境のさらなる充実

図書環境のさらなる充実は、子どもの身近に本がある環境を作り、生活



の中に図書を広めていくために必要不可欠です。

学校図書館図書標準に達成するよう、保護者等を含めた選書アンケートや選書イベントで、より子どもの興味・関心にそえる蔵書を充実させることはもちろん、図書の更新や定期的な入れ替えも必要になります。そのための予算の確保に務めます。

また、教科等の学習における図書館の効果的な活用も検討します。

## 2 子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進

### (1) 全児童生徒で取り組む読書活動

近年、インターネット環境やその他の機器の発達は目まぐるしく、多くの子どもたちは、大量の時間をテレビやゲームに費やす生活をしており、子どもの成長発達に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

これらの生活の中で、読書の重要性を子ども自身が認識するためには、読書の楽しみを実感・体感する必要があります。そのために、下記の3点に取り組みます。

#### ◆ 認定こども園での読書活動の推進

幼児期に図書に触れ合うことは、子ども自身が読書を楽しむ素地を養うために非常に重要であることから、今後も保育教育の中で読書活動を進めていきます。また、「おすすめ絵本」の掲示方法等を工夫することや、図書館活用の方法を案内することでより多くの絵本に関心が持てるようにします。

#### ◆ 全校児童生徒で取り組む「朝読」の取り組み

各学校において「ひとり読書」「図書委員からの読み聞かせ」「ボランティアからの読み聞かせ」など学年に応じた様々な取り組みがされており、朝の段階で心を静めて1日の活動を始めるための大事な時間となっています。今後も継続した取り組みとなるよう務めます。

#### ◆ 学童保育所で取り組む読書活動

学童保育所は、平成29年度に図書館が併設されている新生涯学習センターに移転しました。その利点を生かし、図書館で開催するお話会事業に登所児童全員で参加するなどしています。今後においても図書館で開催

するお話会事業を充実させ、より魅力あるものとなるよう務めます。

また、図書館職員が「学童文庫」を定期的を選書し貸し出ししていますが、今後においては児童が自ら読みたい図書を選書できるような仕組みなどができないか検討します。

## (2) 地域で進める子どもの意識啓発

本町においては、これまで、図書館を中心に、毎月第2土曜日に実施している“お話会カッコウ”による「お話会」や図書館職員による読み聞かせ、「ジャンボ紙芝居づくり」、「にこよむチャレンジ」など、子どもが読書に親しむ事業を展開してきました。これらの取り組みを踏まえ、下記の2点の取り組みを進めます。

### ◆ 効果的な事業の周知と実施

図書館を中心に実施している事業は、子どもが読書の楽しさを実感できる機会を提供し、あるいは親子で読書の楽しさを共有できる時間を提供するものです。これを町内に広めていくためには、多くの参加者を得ることが重要です。町ホームページや図書館ブログ、広報誌等をより有効的に活用するとともに、それ以外の効果的な周知方法についても検討します。

### ◆ 新生涯学習センターの機能を活かした事業展開

複合施設である新生涯学習センターの機能を活かして、関係機関、関係団体と連携協力しながら、子どもが読書の楽しさを実感できる事業として、これまで単発で実施していた「としょかん体験の日」を発展させた「子ども司書」事業や読書と食育等をつなげる事業等の開催を進めます。

## 3 家庭での読書を広めていく取り組み

### (1) 保護者の意識を高める取り組みの推進

本計画で重点目標として位置付けた乳幼児期から小学校低学年までの子どもが本の楽しさを体感できるためには、保護者の読書に対する意識が重要です。『かみしほろの健やかな育ち』では、「家族みんなで夕べの読書」を明記し、

家庭で読書を楽しむことの大切さを位置付けています。この意識を町内に広めていくために、下記の点に取り組みます。

#### ◆ 保護者の学ぶ機会の充実と効果的な情報発信

本町においては、ブックスタート事業などを通して、等しく保護者が絵本の素晴らしさに気づく機会があります。しかし一方で、その気づきを一過性のものとしなない取り組みも重要です。保護者が家庭の教育に読書を取り入れていくことの重要性を継続して学べる機会を提供します。そのためにも保護者への情報を効果的に発信できるよう、図書館、各学校（認定こども園）や子育て支援センターなどの組織・機関を活用した取り組みを進めます

#### (2) 地域における保護者の支援体制の充実

前述のとおり、現在は核家族化、共働き世帯の増加など、保護者が多忙な中で生活を送っており、家庭の中において子どもと読書を楽しむ余裕がないのが実情です。

この実情を踏まえれば、地域が家庭の読書を支援していく必要があり、下記の3点について取り組みを進めます。

#### ◆ 地域全体で取り組む読書環境の整備

町民も足を運ぶ道の駅かみしほろや起業家支援センター「h a r e t a」などの施設に「上士幌町図書館利用案内」の設置協力をしてもらうことから地域全体で子どもの読書環境整備を進める取り組みを広げていきます。

また、関係機関、関係団体や町内企業等と連携し、本と一緒に本に関連した人や仕事を紹介するような取り組みについて今後検討していくこととします。

#### ◆ 子どもの居場所となる図書館づくり

平成29年度より供用開始となった新生涯学習センターは、町民にとって「ふらっと立ち寄りたくなる」ような施設となることを目的のひとつとして設計されています。また、コンパクトシティを目指す本町においては、児童保育所も同館に移転されました。これを踏まえ、図書館が子どもや親

子の居場所となり、立ち寄りたくなるような空間となるよう環境づくりを進めます。

#### ◆ 利用しやすい図書館の体制づくり

平成 27 年度より、月曜日を除く祝日を試行的に開館とし、また月末休館日も平日としています。このことで年間の開館日数は増えていますが、利用増には至っていません。特に連続した祝日（ゴールデンウィークなど）については多くの方にとっては遠方へ出かける機会となっているほか、様々なイベントが開催されることなどから利用が伸びないという状況にあります。開館時間の延長や祝日開館とともに「本と触れ合う機会の増加」「本を選ぶ時間の短縮」等の利用者ニーズをより丁寧にくみ取ったサービスの提供について検討する必要があります。

さらに、視覚障害等の配慮を要する子どもへの対応という観点からと、インターネットなどの電子媒体を利用した情報収集の定着とともに、電子書籍の普及も今後予想されることから、紙媒体と電子媒体の複合的な情報提供と、その利用環境の整備に関する調査・研究が必要です。

図書館司書は図書館資料の選択・収集・提供、利用者に対する読書相談、子どもの読書に対するアドバイスを行い、関係機関と連携を図るなど専門的な役割を担う重要な存在です。そのためにも正職員としての図書館司書の配置と、図書館司書を核とした適正な職員体制が不可欠です。

また、充実した図書館サービスの提供を図るため、適時図書館情報システムを更新し、蔵書点検を実施しながら、豊富で新鮮な蔵書を整備し、将来にわたって持続可能な図書館運営を行う必要があります。

ソフト面とハード面の両面において、長期的・計画的な視点に立った環境整備を進め、魅力ある図書館づくりを進めます。

## 第5章 関係資料

### (資料1) 経過報告

令和2年

- ・ 5月20日 社会教育委員へのヒアリング (6月10日まで)
- ・ 6月1日 上士幌町子どもの読書推進計画策定会議設置要綱施行
- ・ 6月1日 第1回策定会議 (紙面会議) (6月20日まで)
- ・ 6月12日 上士幌小学校読み聞かせボランティアアンケート  
(6月30日まで)
- ・ 6月25日 パブリックコメント (令和2年7月20日まで)
- ・ 8月28日 第2回策定会議
- ・ 10月14日 第3回策定会議 (紙面会議) (11月1日まで)
- ・ 10月23日 社会教育委員へのヒアリング (11月4日まで)
- ・ 11月4日 社会教育委員の会議で報告
- ・ 11月25日 第4回策定会議
- ・ 12月23日 第5回策定会議 (紙面会議) (令和3年1月8日まで)

令和3年

- ・ 1月8日 社会教育委員へのヒアリング (1月29日まで)
- ・ 1月30日 教育委員会へ策定会議より議論の報告書提出
- ・ 2月26日 社会教育委員の会議で報告

## (資料2) 上士幌町子どもの読書推進計画策定会議設置要綱

### (目的及び設置)

第1条 本町において育つ子どもが、言語を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくため、読書の楽しさ、素晴らしさを普及することを目的に、「上士幌町子どもの読書推進計画(仮称)」(以下、「計画」という。)を策定することとし、その策定内容を検討するため、「上士幌町子どもの読書推進計画策定会議」(以下、「会議」という。)を設置する。

### (任務)

第2条 会議は、前項の目的を達成するため、以下の検討を行う。

- (1) 子どもの読書環境の整備に関すること。
- (2) 家庭における子どもの読書普及に関すること。
- (3) その他、計画の策定に必要な事項に関すること。

### (会議)

第3条 会議は、以下の構成メンバーをもって開催する。

- (1) 社会教育委員の会議委員長
- (2) 認定こども園
- (3) 上士幌小学校
- (4) 上士幌中学校
- (5) お話会カッコウ
- (6) 学童保育所
- (7) 保護者
- (8) 教育推進課学校教育担当
- (9) 読書コーディネーター
- (10) 図書館職員
- (11) その他、必要に応じてオブザーバーを置くことができる。

### (議長)

第4条 会議には議長を置く。

- 2 議長は社会教育委員の会議委員長が務めるものとする。



(報告)

第5条 会議で検討した内容は、教育委員会に報告するものとし、教育委員会はその内容をもとに協議し計画を策定する。

(期間)

第6条 策定会議は、第1回会議の日にその効力が発生するものとし、「子どもの読書推進計画」(仮称)の策定をもってその効力を失うものとする。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、教育委員会生涯学習課図書館担当がこれを処理する。

(その他)

第8条 その他、会議に必要な事項は、教育長が別途これを定める。

附則

この要綱は、平成27年 9月 1日より施行する。

附則

この要綱は、令和 2年 6月 1日より施行する。

(資料3) 上士幌町子どもの読書推進計画策定会議 構成員

No.	団体	氏名	備考
1	社会教育委員の会議	佐藤 美加代	要綱により議長
2	認定こども園	笹森 恵未	
3	上士幌小学校	山根 澄子	
4	上士幌中学校	松岡 奈々美	
5	お話会カッコウ	山下 京子	
6	学童保育所	杉井 美樹	
7	保護者	吉田 恵	
8	教育推進課学校教育担当	和賀 愛佳	
9	生涯学習課長	須田 修	事務局
10	生涯学習課主幹	田中 義朗	事務局
11	上士幌町図書館	長良 実穂	事務局
12	上士幌町図書館	水越 正浩	事務局
13	上士幌町図書館	橋本 香奈代	事務局
14	読書コーディネーター	森 典子	事務局

(資料4) アンケート結果および 別紙のとおり

- ・『子どもの読書推進計画』読書アンケート 経年変化比較
- ・上士幌小学校 読み聞かせボランティア アンケート集計
- ・上士幌町第1期子どもの読書推進計画に基づく評価表

『子どもの読書推進計画』  
読書アンケート 経年変化比較

上士幌町教育委員会

読書アンケート実施人数 (2017-2020)

	2年生	5年生	中学2年生	こども園 保護者	小2保護 者	小5保護 者	中2保護 者	合計
合計	133	159	131	244	82	88	87	924

2017年 (平成28年度)

	2年生	5年生	中学2年生
児童 生徒数	33	35	37

児童・生徒	保護者
423	501

	こども園	2年生	5年生	中学2年生
保護者	43	30	8	24

2018年 (平成29年度)

	2年生	5年生	中学2年生
児童 生徒数	27	43	10

	こども園	2年生	5年生	中学2年生
保護者	79	18	34	12

2019年 (平成30年度)

	2年生	5年生	中学2年生
児童 生徒数	31	44	47

	こども園	2年生	5年生	中学2年生
保護者	66	15	26	38

2020年 (令和元年度)

	2年生	5年生	中学2年生
児童 生徒数	42	37	37

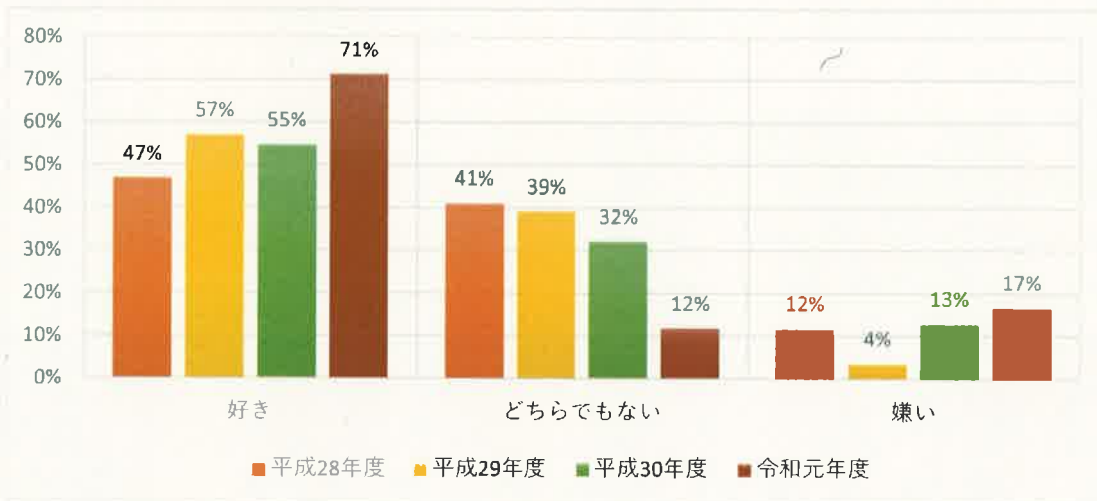
	こども園	2年生	5年生	中学2年生
保護者	56	19	20	13

## 子どもの読書推進計画 児童・生徒アンケート経年変化(小学2年生)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	33	27	31	42	133

### ①本を読むのが好きですか？

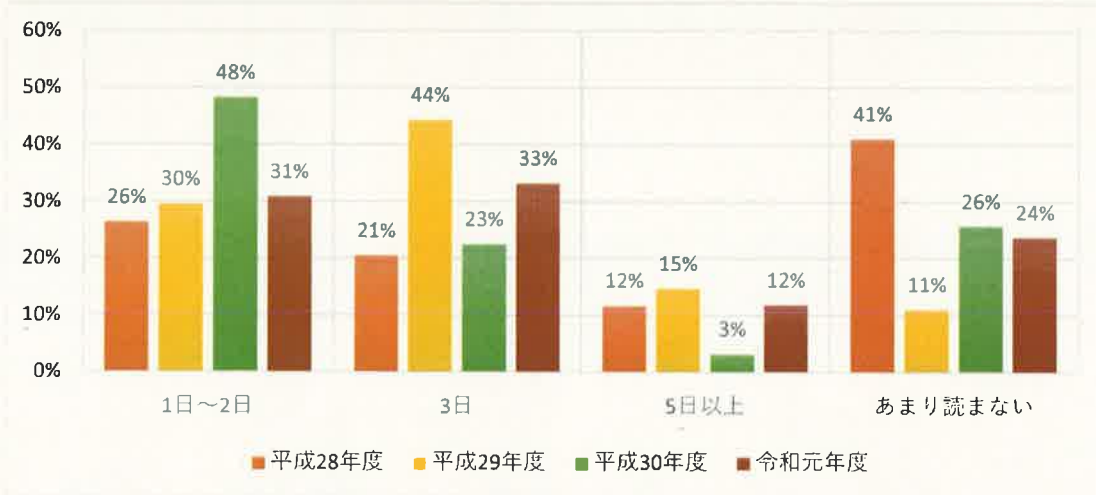
	好き	どちらでもない	嫌い
平成28年度	47%	41%	12%
平成29年度	57%	39%	4%
平成30年度	55%	32%	13%
令和元年度	71%	12%	17%





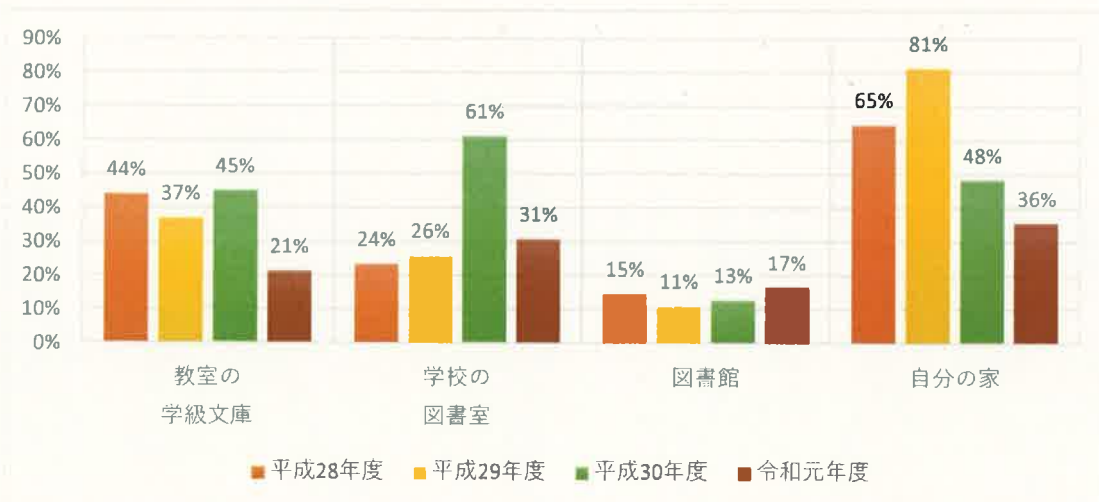
②どれくらい本を読みますか？(1週間)

	1日～2日	3日	5日以上	あまり読まない
平成28年度	26%	21%	12%	41%
平成29年度	30%	44%	15%	11%
平成30年度	48%	23%	3%	26%
令和元年度	31%	33%	12%	24%



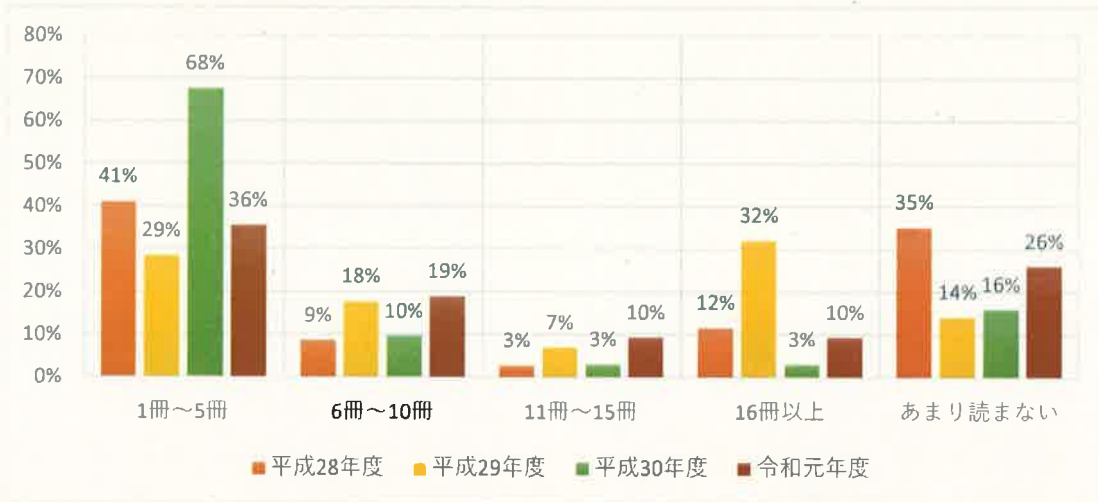
③いつも本をどこで読みますか？(複数回答)

	教室の 学級文庫	学校の 図書室	図書館	自分の家	その他
平成28年度	44%	24%	15%	65%	きょうしつでせんせいとよむ
平成29年度	37%	26%	11%	81%	
平成30年度	45%	61%	13%	48%	学童(2)
令和元年度	21%	31%	17%	36%	車の中、おばあちゃんの家、実家



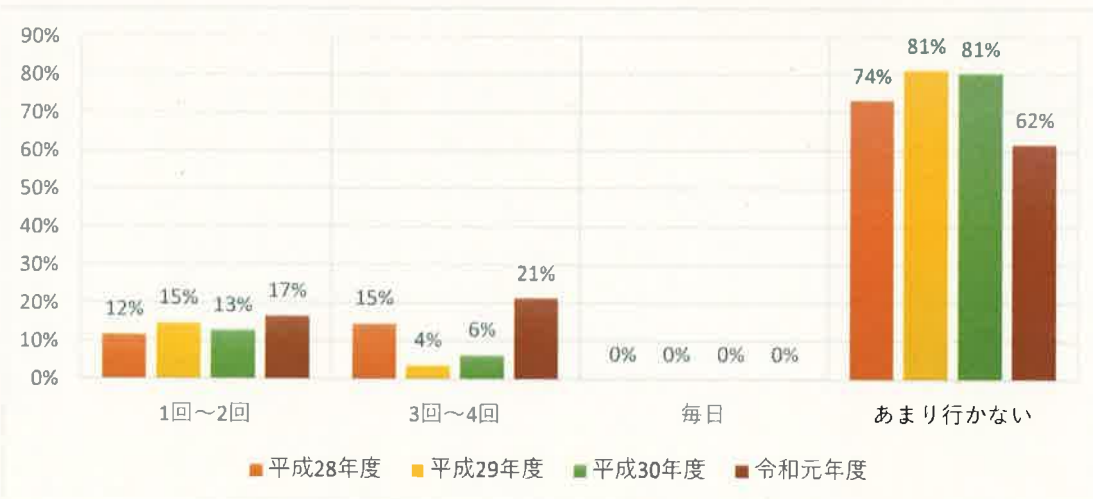
④長期休暇中にどれくらい本を読みますか？

	1冊～5冊	6冊～10冊	11冊～15冊	16冊以上	あまり読まない
平成28年度	41%	9%	3%	12%	35%
平成29年度	29%	18%	7%	32%	14%
平成30年度	68%	10%	3%	3%	16%
令和元年度	36%	19%	10%	10%	26%



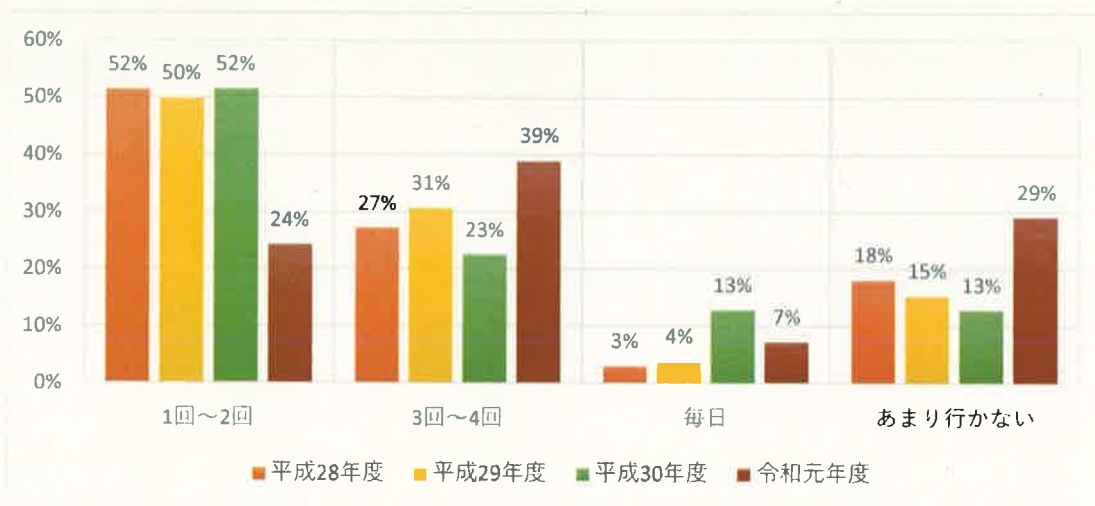
⑤町の図書館にどれくらい行きますか？(1週間)

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	12%	15%	0%	74%
平成29年度	15%	4%	0%	81%
平成30年度	13%	6%	0%	81%
令和元年度	17%	21%	0%	62%



⑥学校の図書室へはどれくらい行きますか？(1週間)

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	52%	27%	3%	18%
平成29年度	50%	31%	4%	15%
平成30年度	52%	23%	13%	13%
令和元年度	24%	39%	7%	29%

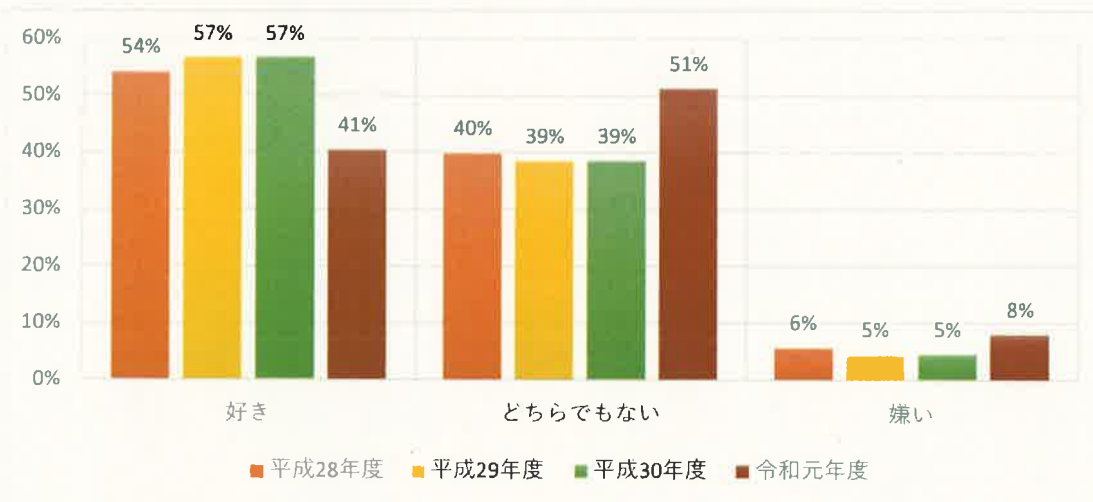


子どもの読書推進計画 児童・生徒アンケート経年変化(小学5年生)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	35	43	44	37	159

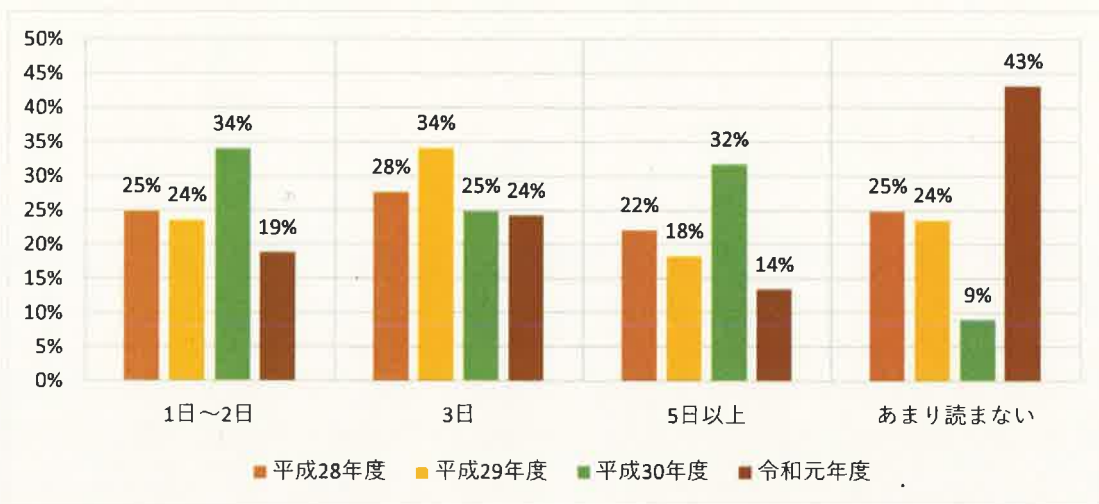
①本を読むのが好きですか？

	好き	どちらでもない	嫌い
平成28年度	54%	40%	6%
平成29年度	57%	39%	5%
平成30年度	57%	39%	5%
令和元年度	41%	51%	8%



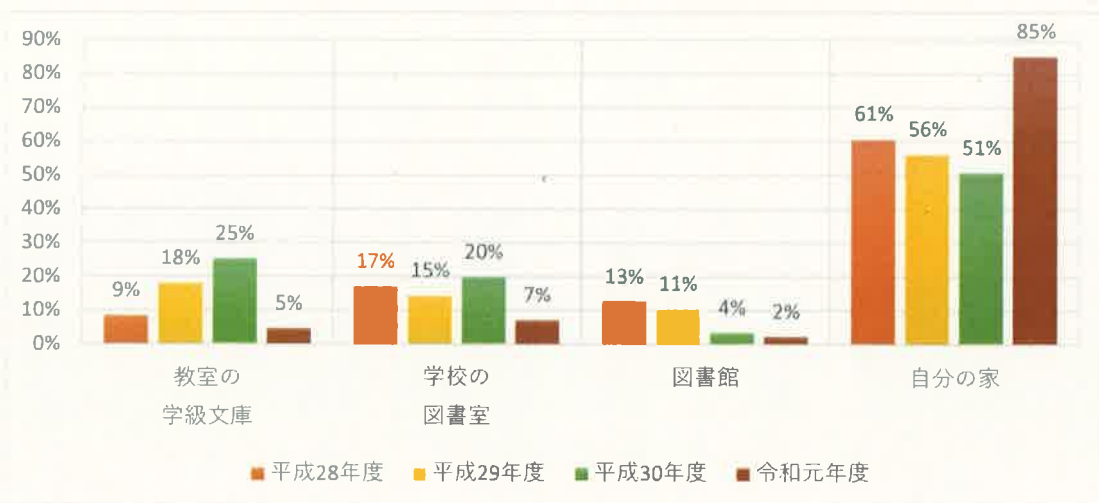
②どれくらい本を読みますか？(1週間)

	1日～2日	3日	5日以上	あまり読まない
平成28年度	25%	28%	22%	25%
平成29年度	24%	34%	18%	24%
平成30年度	34%	25%	32%	9%
令和元年度	19%	24%	14%	43%



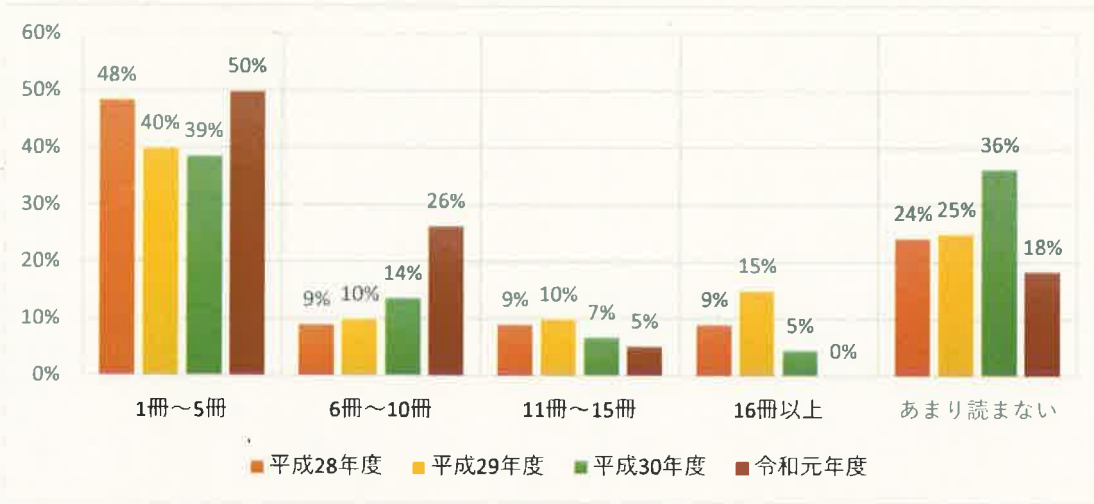
③いつも本をどこで読みますか？(複数回答)

	教室の 学級文庫	学校の 図書室	図書館	自分の家	その他
平成28年度	9%	17%	13%	61%	祖父母の家
平成29年度	18%	15%	11%	56%	
平成30年度	25%	20%	4%	51%	学童
令和元年度	5%	7%	2%	85%	学童



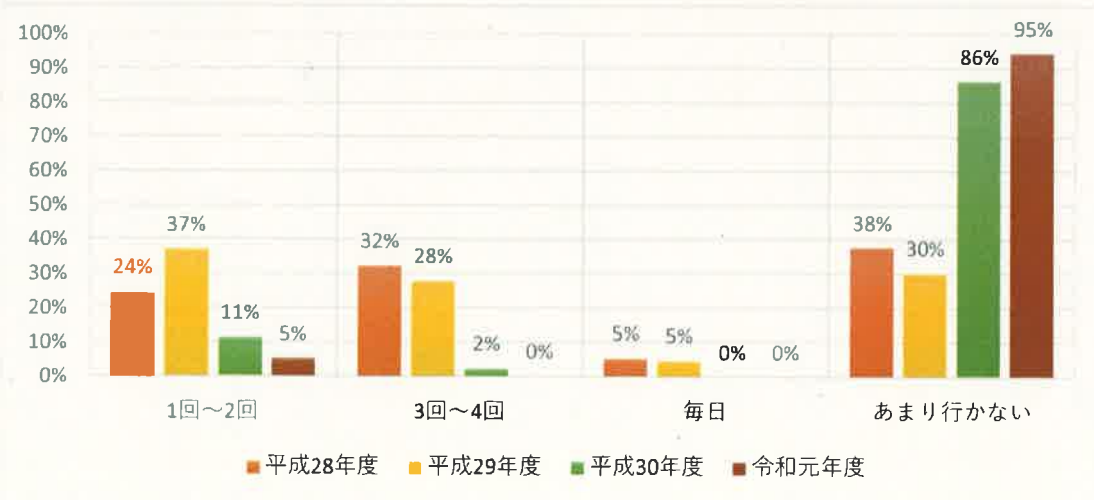
④長期休暇中にどれくらい本を読みますか？

	1冊～5冊	6冊～10冊	11冊～15冊	16冊以上	あまり読まない
平成28年度	48%	9%	9%	9%	24%
平成29年度	40%	10%	10%	15%	25%
平成30年度	39%	14%	7%	5%	36%
令和元年度	50%	26%	5%	0%	18%



⑤町の図書館にどれくらい行きますか？(1週間)

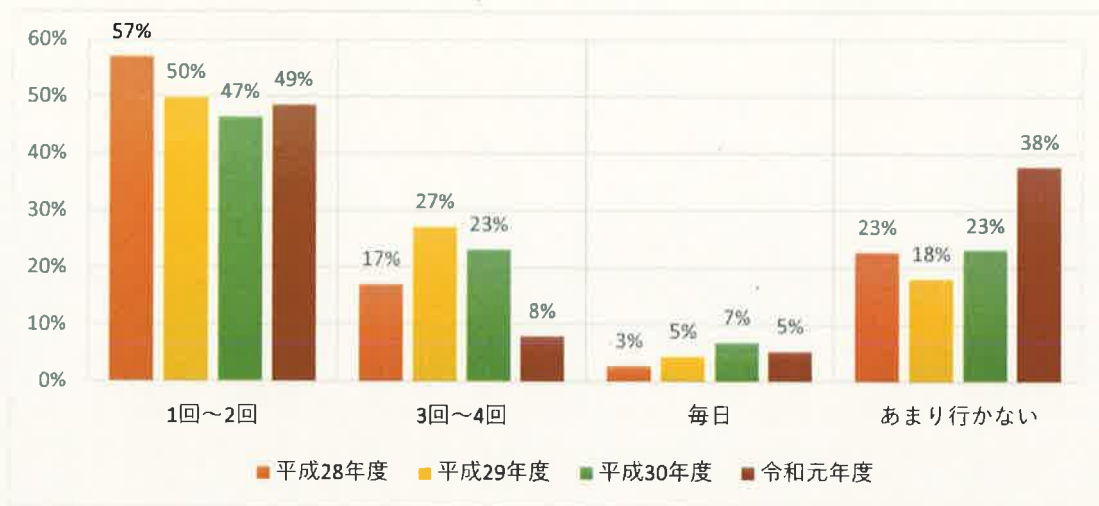
	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	24%	32%	5%	38%
平成29年度	37%	28%	5%	30%
平成30年度	11%	2%	0%	86%
令和元年度	5%	0%	0%	95%





⑥学校の図書室へはどれくらい行きますか？(1週間)

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	57%	17%	3%	23%
平成29年度	50%	27%	5%	18%
平成30年度	47%	23%	7%	23%
令和元年度	49%	8%	5%	38%

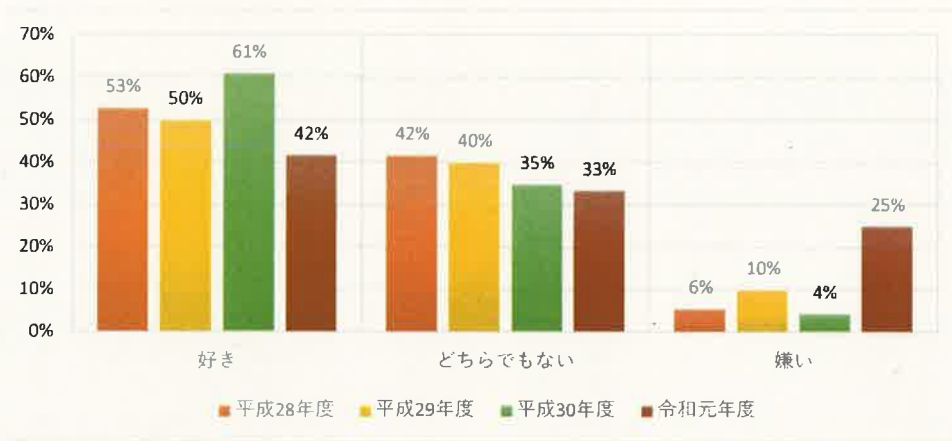


子どもの読書推進計画 児童・生徒アンケート経年変化(中学2年生)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	37	10	47	37	131

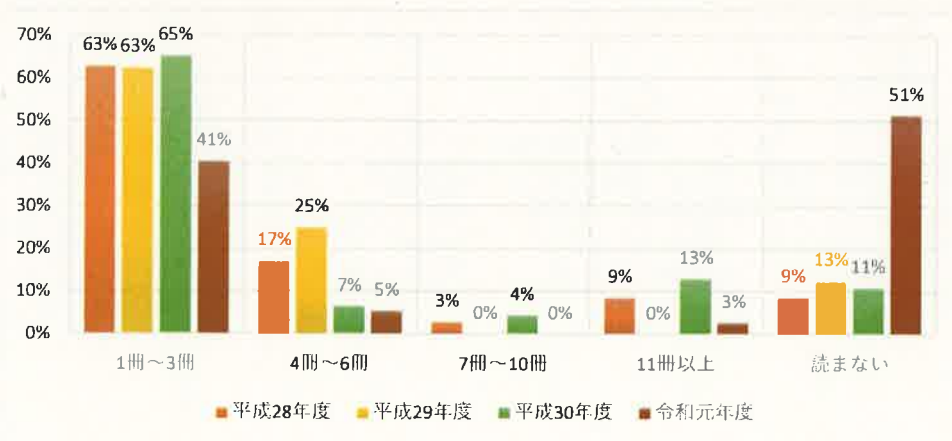
①本を読むのが好きですか？

	好き	どちらでもない	嫌い
平成28年度	53%	42%	6%
平成29年度	50%	40%	10%
平成30年度	61%	35%	4%
令和元年度	42%	33%	25%



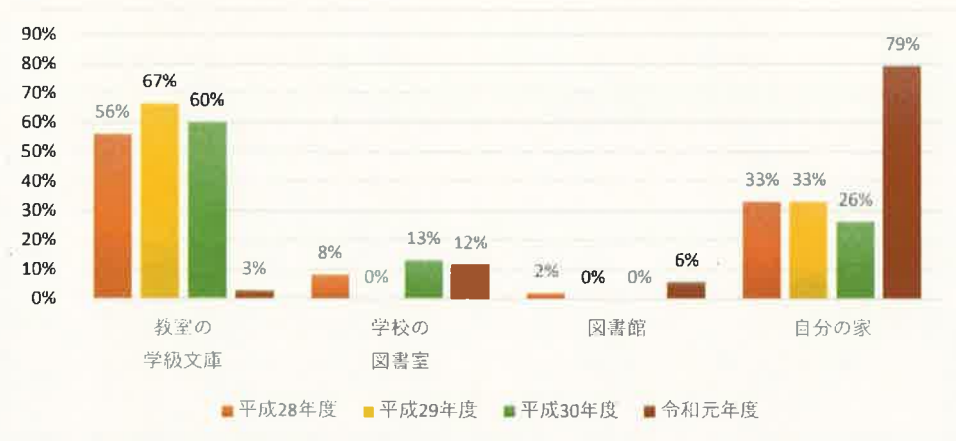
②どれくらい本を読みますか？（1か月）

	1冊～3冊	4冊～6冊	7冊～10冊	11冊以上	読まない
平成28年度	63%	17%	3%	9%	9%
平成29年度	63%	25%	0%	0%	13%
平成30年度	65%	7%	4%	13%	11%
令和元年度	41%	5%	0%	3%	51%



③いつも本をどこで読みますか？（複数回答）

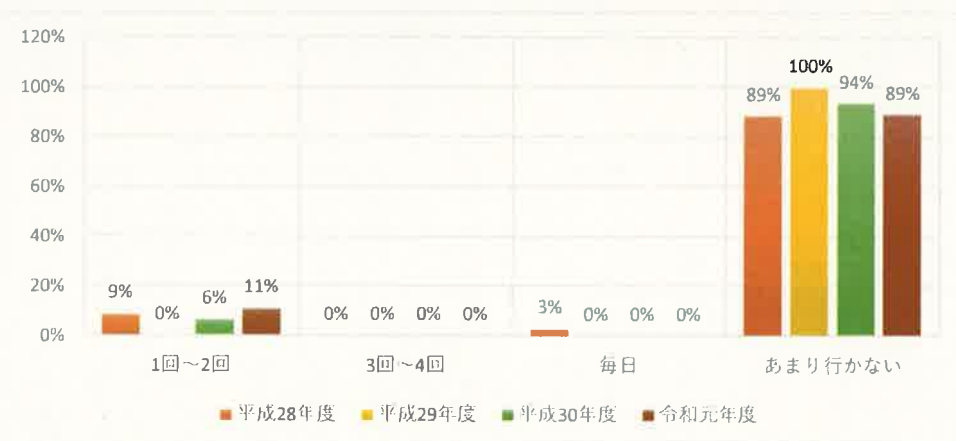
	教室の 学級文庫	学校の 図書室	図書館	自分の家
平成28年度	56%	8%	2%	33%
平成29年度	67%	0%	0%	33%
平成30年度	60%	13%	0%	26%
令和元年度	3%	12%	6%	79%



④長期休暇中にどれくらい本を読みますか？（小学生限定）

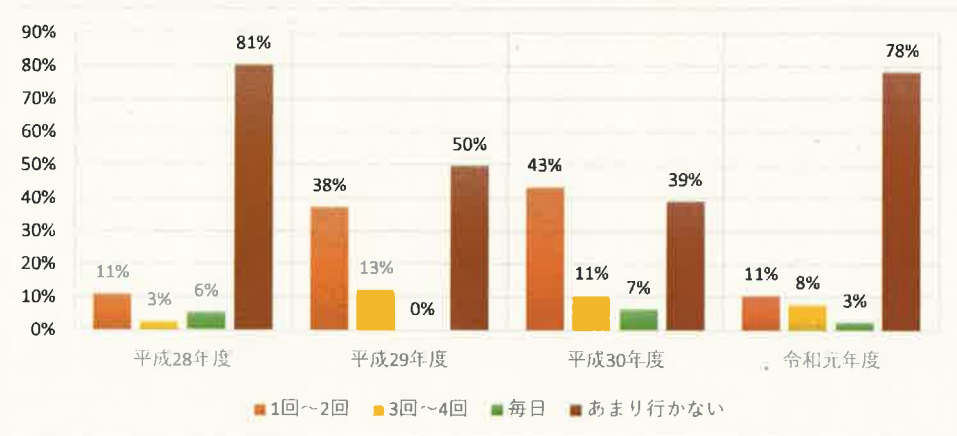
⑤町の図書館にどれくらい行きますか？（1週間）

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	9%	0%	3%	89%
平成29年度	0%	0%	0%	100%
平成30年度	6%	0%	0%	94%
令和元年度	11%	0%	0%	89%



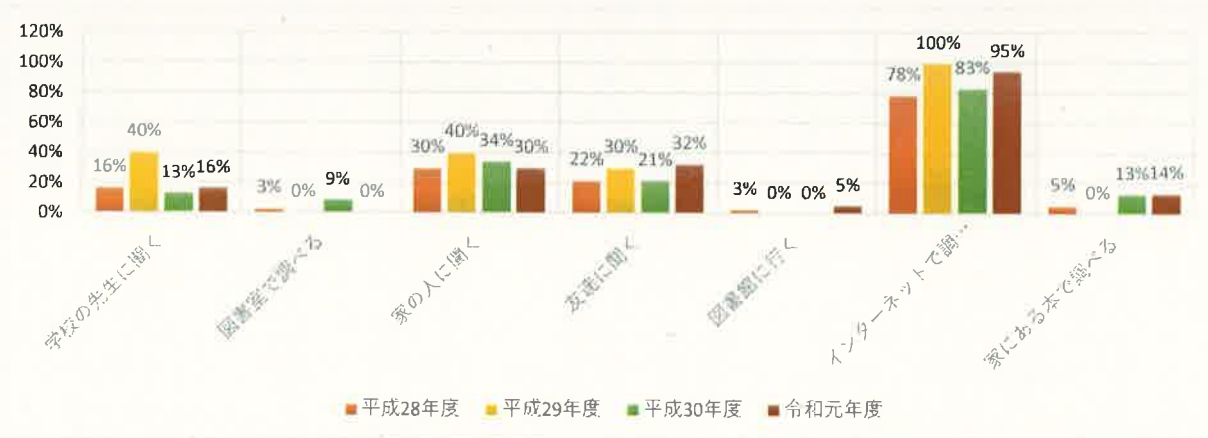
⑥学校の図書室へはどれくらい行きますか？(1週間)

	1回～2回	3回～4回	毎日	あまり行かない
平成28年度	11%	3%	6%	81%
平成29年度	38%	13%	0%	50%
平成30年度	43%	11%	7%	39%
令和元年度	11%	8%	3%	78%



⑦知りたいことがある時、どのようにして調べますか (複数回答可)

	学校の先生に聞く	図書室で調べる	家の人に聞く	友達に聞く	図書館に行く	インターネットで調べる	家にある本で調べる
平成28年度	16%	3%	30%	22%	3%	78%	5%
平成29年度	40%	0%	40%	30%	0%	100%	0%
平成30年度	13%	9%	34%	21%	0%	83%	13%
令和元年度	16%	0%	30%	32%	5%	95%	14%



## 子どもの読書推進計画 読書アンケート経年変化(こども園保護者)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
人数	43	79	66	56	244

### ①どれくらい絵本などをよんであげていますか

	ほぼ毎日	週に何日かは	たまに読書をしている	あまりしていない	わからない
平成28年度	28%	15%	23%	15%	18%
平成29年度	27%	11%	32%	18%	12%
平成30年度	34%	21%	5%	22%	17%
令和元年度	36%	13%	22%	20%	9%

